

調達価格等算定委員会（第113回） 議事要旨

○日時

令和8年1月20日（火）14時58分～16時17分

○場所

オンライン会議

○出席委員

秋元圭吾委員長、安藤至大委員、岩船由美子委員、大石美奈子委員、松村敏弘委員

○オブザーバー

農林水産省、国土交通省、環境省、消費者庁

○事務局

日暮新エネルギー課長

○議題

- （1）入札制・地域活用要件について
- （2）残る論点について

○議事要旨

- （1）入札制・地域活用要件について

委員

- ・ 事務局案に賛成。
- ・ 2026年度の事業用太陽光の入札について、競争がしっかり働き適正な落札価格となることを期待する。
- ・ 着床式洋上風力について、複数事業者の入札参加がない可能性がある場合には、上限価格が公表されていると、公開された価格にとりあえず入れるといった行動を考えられてしまうので、非公開として可能な範囲で安く応札していただき、実績を積み上げていただきたい。
- ・ 入札制度を維持していくかどうかは、その役割とともに検討すべき。全体的な立て付けを考えていただきたい。
- ・ 地域活用要件の要件設定について、地域にとってネガティブな案件はできるだけ排除しつつ、一定程度災害時に役立つものなど、良い案件であることを定義づける形となるとよい。
- ・ 地上設置型の事業用太陽光を支援の対象外とする方向となったが、その措置の前後の太陽光の導入状況は確認いただきたい。
- ・ 災害が頻発する中で、エネルギーの自給の観点からは地域活用要件の設定は国にとっても重要な課題。よく状況を確認し検討してほしい。

- ・ 屋根設置区分の入札制免除について、促進のための免除はすべきでないが、初期投資支援スキームを措置したという点を踏まえると、整理について異論はない。

事務局

- ・ 地域と共生された太陽光発電は引き続き導入を進めていくという方針は変わらない。どのような影響があり得るか、影響の出ないようにどうすべきかという点についてはよく考えて進めていきたい。

委員長

- ・ 事務局提案に対し、基本的に委員から異論はなかった。

(2) 残る論点について

委員

- ・ 風力発電の廃棄等費用について、適切な水準については今後も常に検討していく必要がある。
- ・ バランシングコストの増額について、大きな支援という印象を受ける。FIP 増加への寄与など関係があれば知りたい。
- ・ FIP 移行を進めるということに重きを置いての水準だと思うが、例えば蓄電池とのセットなど、電源の種類によって重み付けするなども考え得るのではないか。
- ・ 陸上風力について廃棄費用を適切に積み立てているかどうかは国の方でも見ていただくとともに、リサイクルについてもしっかり進めていただきたい。
- ・ 法令等に基づいて適切に解体処理するのが事業者の義務であり、廃棄等積立制度は積立額がある事業者にとって不足した際に国が代わりに全て負担するという制度ではないことを事業者には自覚いただきたい。
- ・ 解体等積立基準額の水準については、放置等が頻発しない水準として妥当かという観点から、今後インフレ等でコストが上がることも睨みながら検討いただきたい。
- ・ バランシングコストについて、インフレが進み全体の価格が上がってきたときに、不適切に低い額のままとならないかは懸念。本委員会における論点ではないが、大きな問題が発生すれば、その水準について適切に議論いただきたい。

事務局

- ・ FIP 移行の件数は着実に増加してきている。
- ・ 再エネ電源の電力市場への統合の観点からFIPに移行する事業環境整備は他の委員会でも検討しつつ、バランシングコストはこの水準で問題が生じていないかも事務局として実態をよく見ながら、必要な見直しを行っていきたい。
- ・ 廃棄等積立制度において、事業終了段階で積立額より実際の廃棄費用が大きくなる場合、事業者で負担の上、廃棄等処分を行うという前提となっている。
- ・ 解体等積立基準額については、廃棄が行われる適切な水準として、インフレが生じればその水準も随時見直していきたい。

委員長

- ・ 事務局提案に対し、基本的に委員から異論はなかった。